

○原子力等エネルギー・資源に関する調査
(「資源エネルギーの安定供給」のうち、資源の安定供給等)

【質問のポイント】

1. エネルギー基本計画の見直しに向けた検討状況について
2. 2030年温室効果ガス削減目標実現に向けた支援策の検討状況について
3. 適地確保や地元との調整等様々な課題がある再エネの主力電源化に向けた取組促進の在り方について

本日の会議に付した案件

○原子力等エネルギー・資源に関する調査(「資源エネルギーの安定供給」のうち資源の安定供給等)

○会長(宮沢洋一君) ただいまから資源エネルギーに関する調査会を開会いたします。(略)

○会長(宮沢洋一君) 原子力等エネルギー・資源に関する調査を議題といたします。

本日は、「資源エネルギーの安定供給」のうち、「資源の安定供給等」について政府から説明を聴取し、質疑を行った後、委員間の意見交換を行います。

本日の議事の進め方でございますが、経済産業省から二十分程度、環境省から十分程度それぞれ説明を聴取し、一時間三十分程度質疑を行った後、一時間程度委員間の意見交換を行いたいと存じます。

なお、御発言は着席のままです。

それでは、初めに経済産業省から説明を聴取いたします。江島経済産業副大臣。(略)

○会長(宮沢洋一君) 以上で政府からの説明聴取は終わりました。これより質疑を行います。(略)

○宮崎雅夫君 自由民主党の宮崎雅夫でございます。

まず、資源エネルギー庁の保坂長官にお伺いをしたいと思っております。

先ほど両副大臣からも御説明がございましたけれども、先月二十二日に菅総理が、二〇三〇年に向けて、温室効果ガスの削減目標について、野心的な目標ということで四六%削減するという目標を表明されたわ



けでございます。その後、気象サミットでもこの新たな削減目標を表明されて、我が国の気象変動分野への積極的なこの取組に対してバイデン・アメリカ大統領などからも歓迎をされたというふうな承知しております。

こういう状況の中で、エネルギー基本計画の見直しに向けた検討が昨年十月から進められるというふうな承知をしておりますけれども、関係者も大変注目をしておるところでございます。今回の見直しでも、江島副大臣からも御説明の中でございましたけれども、今取り組んでおられるいわゆる3EプラスS、これの同時実現を目指すことというのが非常に重要なことだというふうなことは考えております。

また、総理も、この二〇三〇年の目標については、この達成は決して容易なものではないというふうにも述べられておりまして、この達成に向けて、省エネの対策、それからエネルギー転換も含めて、これ全ての分野で、部門において取組を推進をしていくことが必要なわけでございます。

これまでも政府としても、昨年末のグリーン成長戦略、この策定でありましたり、成長戦略の柱としても取組が進められてきているわけでございます。NEDOでも、十年間に二兆円の基金を造成をして、目標達成に挑戦することをコミットした企業に対して、技術開発から実証、社会実装まで一気通貫でこれ支援をすることになったわけでございますけれども、新たな目標も掲げられて、更なる支援策ということも必要になってくるというふうな考えます。

そこで、エネルギー基本計画の見直しに向けた現在の検討状況、それから目標実現に向けた支援策についてのお考えに

ついてまずお伺いしたいと思います。○政府参考人(保坂伸君) エネルギー基本計画でございますけれども、昨年の十月から、総合資源エネルギー調査会におきまして見直しに向けた議論を行っているところでございます。これまでに十一回審議会を開催いたしました。菅総理が表明された二〇五〇年カーボンニュートラルや、新たな二〇三〇年度の温室効果ガス削減目標に向けた課題や対応の方向性について議論を深めているところでございます。

二〇五〇年カーボンニュートラルや二〇三〇年度の新たな削減目標を目指す中にありましても、委員御指摘のように、3EプラスSのバランスを取り続けていくことが重要だと考えております。脱炭素化と安価なエネルギーの安定供給の両立に向けまして、今後もエネルギー政策全体について集中的に議論を深め、結論を出していく所存でございますが、まだ議論中でございます。

また、新たな二〇三〇年度の温室効果ガス削減目標につきましては、これまでの目標を七割以上引き上げるものでございまして、決して容易なものではないと思っております。徹底した省エネ、再エネの最大限の導入、

確立した脱炭素電源である原子力の活用、非効率な火力のフェードアウトなどを着実に進めていく所存です。



保坂資源エネルギー庁長官

ございます。

御指摘の支援策につきましては、二兆円の基金につきましては、これ、二〇五〇年カーボンニュートラルの実現のために設けられたものでございまして、二〇三〇年度の新たな目標を踏まえまして、技術、社会面での制約やコストにも配慮をしながら、産業の国際競争力の維持強化と両立できるよう、必要となる投資を促す刺激策を含めまして検討を加速していきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○宮崎雅夫君 ありがとうございます。どちらでも今検討中ということでございますけれども、しっかり検討していただければというふうに思います。

同じく、次の質問についても保坂長官にお伺いをしたいというふうに思います。

今のエネルギー基本計画でも、再エネについては主力電源化を目指すというふうなことでありますし、先ほどの江島副大臣からの再エネの御説明の中でも、これ最大限導入を図っていくと、私ももちろんそういうことが必要ではないかと思っておりますけれども、御説明でもありましたけれども、やはりいろんな進めるには課題もあるということでございます。本調査会で、参考人の方でもいろんな御意見があったわけでございますけれども、系統整備を含めたコストのやはり問題であったり、出力の変動の問題というものもでございます。

私も全国を回っておりますと、例えば太陽光発電、どこの農山村にもやはりあるということでございますけれども、昔は優良農地だったんじゃないかなとか、山の斜面、こんなところにもあるんだとか、そういうふうな思ったこともござ

います。やはり、適地の確保の問題であったり地元との調整ということも非常に大切なことになってくると思っております。

再エネに

ついて、

カーボンニュートラルと、これは非常に大事なことでありますけれども、この一面だけというだけではなくて、いろんな側面を見ながら総合的にやはり進めていかないといけないんじゃないかと思っております。

例えば、太陽光発電を拡大していくという中で優良な農地が潰れるというふうなことであれば、食料安全保障の観点からは非常に大きな当然懸念がある。まあそういうことは起きないと思っておりますけれども、そういうこともあるわけでございますし、再エネ、それから先端産業でこれは欠かすことのできないレアメタル、レアアース、これ御説明ございましたけれども、資源の偏在性も高い、地学的リスクが高い。こういうところに偏っているということになってきますと、安定供給は非常に重要な課題で、今取り組んでいただいているわけでありますけれども、これが、再エネの推進が、資源にやはり乏しい我が国にとっては新たなリスクの増大にならないように留意をしなければならないといけないということも視点の一つではないかなというふうに思っています。そこで、いろんな課題がございますけれども、再エネの主力電源化に向けた取



組の促進について、お考えを改めてお伺いをしたいと思います。

○政府参考人(保坂伸君) 再エネでございませけれども、二〇五〇年のカーボンニュートラルの実現に向けた鍵でございまして、最大限導入していくということとは基本方針でございます。

一方で、審議会の中でも、再エネの最大限の導入に当たりましては、一つ目、FIT賦課金による年間二兆円を超える国民負担の抑制、二つ目に、再エネポテンシャルの大きい地域と首都圏等の大需要地を結ぶ送電線の整備、三つ目に、平地が限られているといった、委員も御指摘もございましたけれども、立地制約もある中での地域と共生した形での適地の確保といった様々な課題があるということも審議会の中で指摘をされていることも事実でございます。

こうした課題を克服すべく、コスト低減の取組の強化やマスタープランの策定等を通じた送電網整備、地域と共生可能な形での適地の確保など、あらゆる施策を総動員していく考えでございます。加えて、現在の太陽光パネル等が輸入に依存している実態も踏まえまして、今後の導入拡大政策を産業政策と両立して進めていく必要があると考えております。

こうした中で、洋上風力につきましては、昨年十二月の官民協議会におきまして、二〇四〇年までに三千万から四千万キロワット



政府側答弁席

トの案件を形成するという導入目標を盛り込んだ洋上風力産業ビジョンを策定したところでございまして、これを呼び水として、予算や税制による設備投資支援や産業界の国内調達、コスト低減目標の設定、国内外企業のマッチング促進等を通じて、強靱な国内サプライチェーンを形成していく考えでございます。

太陽光につきましては、我が国が他国に先んじて開発を進めてまいりましたペロブスカイト等の次世代型太陽電池の実用化を加速し、既存の太陽電池では設置が困難な壁などの新たな市場の開拓、獲得を目指しているところでございます。具体的には、第三次補正予算で措置したグリーンイノベーション基金も活用いたしまして、製品化も見据えた企業の取組を支援してまいります。

このような取組を通じまして、新たな産業の創出や我が国企業の競争力強化を進め、国内企業の力を生かした経済と環境の好循環を実現してまいりたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

○宮崎雅夫君 ありがとうございます。最後に、時間も限られておりますけれども……

○会長(宮沢洋一君) 宮崎さん、時間がもう、おまとめください。



○宮崎雅夫君 はい、来ておりますよう
でございますので、環境省の笹川副大臣
にお伺いをしたいというふうに思ってお
りましたけれども、ちよつとお願だけ
ということでもとめさせていただきます
と思います。

江島副大臣、笹川副大臣の御説明の中
でも、それぞれが連携をして取り組んで
いくというお話もございました。カーボ
ンプライシングのお話もございました
し、また再エネの推進でも、両省だけ
はなくて関係省庁の連携ということが非
常に大切になってきております。

まさしく環境省が旗振り役というよう
なことでございますので、是非、笹川副
大臣におかれましては、関係省庁との連
携ということを、これまででもやってき
ていただいておりますけれどもお願いをし
たいというふうに思いますし、また、カ
ーボンニュートラルの取組というのは、
産業構造とか社会全体、この大転換が必
要なものもございますので、国民の皆
さんの理解ということがもう欠かせない
ことだろうと思ひまして、非常に地道な
ものでもございますけれども、是非副大

臣のリス
トアップ
でもつ
て、こ
れにつ
いても
積極的
に取り組
んで
いただ
ければ
と思ひ
ます。
済み



意見を聞く江島経産副大臣、笹川環境副大臣

ません、これで終わらせていただきます。
ありがとうございます。
(以下略)